

# 災害ボランティア報告

2011年10月12日

湘南台バプテスト教会 牧師 坂元俊郎

## はじめに

「神奈川バプテスト連合牧師会・震災ボランティア」の募集の呼びかけに応じて、10月4日から7日までボランティア活動に参加しました。以下はその報告です。

## 1、参加メンバー

参加メンバーは連合牧師会幹事の杉野省治牧師（平塚教会牧師）、同じく幹事の坂元幸子牧師（藤沢教会牧師）の2名と、坂元俊郎牧師（湘南台教会）、片山京子姉（逗子第一教会）、松岡充樹兄（川崎教会）、池田正義兄（湘南台教会）の6名でした。松岡兄以外は全員初めての災害ボランティアでしたので多少緊張して参加しました。

## 2、活動報告

### ①第1日目(4日)：移動日

東京駅11時15分ごろ全員集合して新幹線で新花巻駅まで行き、釜石線に乗り換えて遠野駅まで行きました。遠野駅到着は午後4時頃でした。駅では「遠野ボランティアセンター」で働いておられる金子千嘉世牧師と藤寿牧師が出迎えて下さいました。遠野ボランティアセンターに到着後、金子牧師や藤牧師よりセンターの活動内容や注意事項などのレクチャーを受けました。その後「遠野市福祉センター」を訪問し、「NPO法人 遠野まごころネット」の活動を見学しました。ここではボランティアの受け入れ、必要とされている活動の案内、各地域への割り振り、体育館での宿泊等を行っていました。世界中から色々なボランティアが参加し、日本中の色々な方々やグループが参加していることを知り、胸が熱くなりました。



### ②第2日目(5日)大槌町赤浜地区でのボランティア

5時30分起床、7時には「遠野まごころネット」に集合しました。全部で150名ほど集まりました。



ラジオ体操をしたあと、ボランティアグループの紹介、行き先と作業内容、作業上の注意、写真撮影の注意、リーダーの紹介がありました。私たちは岩手県上閉伊郡大槌町赤浜地区に行くことにしました。遠野から1時間30分ほど2台のマイクロバスに乗って行きました。釜石市の市街地から20分ほどのところへ降りました。降りた場所は「東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター」の敷地内でした。海岸線のすぐ隣で3階建ての建物は完全に破壊されて、まったく使用不可能の状況でした。すぐ隣に大きな船が打ち上げられ、3メートルほどの防波堤は津波で破壊されていました。ここで約60名のボランティアと一緒に働きました。

すぐ隣に大きな船が打ち上げられ、3メートルほどの防波堤は津波で破壊されていました。ここで約60名のボランティアと一緒に働きました。

作業内容はすでに重機で片付けられた後を、手作業で瓦礫を撤去していく作業でした。金属類、石ころ、ガラス、アルミ類や鉄類、コンクリートの破片、石膏、瓦、電線、ビン類、ビニール、プラスチック、発泡スチロール、木片、紙類、木の根っこなど色々なものを分別します、一輪車やスコップを使っての労働でした。午前中に2時間半、午後は1時間半ほど、休みを入れながら働きました。本当に狭い範囲しかできません。まだまだ多くのボランティアが必要であることを思われました。

### ③第3日目(6日)大槌町吉里吉里および小釜町の仮設住宅の訪問

3日目は雨になり合羽を着ての訪問となりました。この日は連盟が行っている支援活動の手伝いでした。朝8時30分に連盟の「遠野ボランティアセンター」を出発しました。車は3台で行きました。金子牧師、藤牧師、池田兄が行きと帰りの約4時間を運転しました。吉里吉里は遠野から車で約2時間かかります。2日目に行った大槌町よりもさらに北になります。支援物資は毛布、手袋、ジャンパー、



タオル類、台所用洗剤、男性用下着、防寒具、バッグ、襟巻き、シーツなど様々なものを3台のバン一杯に積んで行きました。

午前中に吉里吉里の第2仮設住宅に行きました。この仮設住宅に入る前に、高さ10メートルもありそうな鉄橋が流されており、線路はなくなり、土台のみが残されていました。ここは「ケアセンターゆうゆうの里」の方々が色々なケアを高齢者の方々を中心に行なっていました。仮設住宅に集会所があるのでそこに物資を搬入し、被災された方々と体操をしたり、一緒に童謡や唱歌をギターの伴奏で歌いました。11時から健康診断があるとのことでした。健康管理は充分にして欲しいです。帰りがけには1軒の民家を訪ねました。ここは住んではいけない地区だそうです。半分破壊された家を修理しながら1人で高齢の方が住んでいました。自分の家を離れがたく、水もない、電気も通っていない所で生活しておられました。水や衣類や毛布などをお渡しました。

午後からは小釜町の第4仮設住宅を訪問しました。ここは1棟に6室ある仮設住宅が11棟建っていました。ここにもグループホームが併設されていました。小雨の中テントを張って、支援物資を自由に選んでもらいました。雨の中近くの仮設住宅からも大勢来られほど好評でした。そしてお茶とお菓子を食べながら、「歌声喫茶」を行ないました。約20名の方々が集まって下さり、童謡や唱歌を歌いました。そして色々な津波の体験談を話して下さいました。3階に住んでいて、腰まで塩水につかり、一晩明けてヘリコプターで吊り上げられて助かった方の話を私は聞きました。私が「怖かったですよ」と聞いたら、その方は「覚えていない」というのです。本当に大きな緊張感、死線さまよう感じを持たれたので



しょう。ここで感じたことはまだまだ本当に支援物資が不足していること、これから冬に向かうので暖房の設備をしっかりして欲しいこと、お店がある所まで遠く車で行かなければならないのでその対策、雪で孤立しないようにして欲しいことなどです。不慣れな地で見ず知らずの方々と一緒に生活するのは大変だと思います。「地縁が切れ」、「血縁が切れ」た地で

一緒に生活しなければならないことは辛いことです。ここでNHK盛岡放送局の取材中の記者と会いましたが、やはりこの地区は釜石よりも支援が遅れているとのことでした。支援の格差があることを知りました。

#### ④第4日目(7日)；移動日、帰路に着く

帰路に着く前に「遠野ボランティアセンター」の部屋、トイレなどの掃除と濡れたブルーシートの片付けやテントの片付け等を行いました。このセンターが多くの方々に利用されていることに感謝しました。連盟の働きがさらに継続されるように祈ります。帰りには松田正三牧師のご実家である「まつだ松林堂」の銘菓「明けがらす」をお土産に買いました。松田牧師の子どもの頃の写真も見ることができ感慨深い思い出になりました。

### 3、まとめとして

これから冬に入ります。道路は凍り、運転は危険になります。仮設住宅から外出するのも大変になると思います。遠野ボランティアセンターも専任の佐藤牧師が来られます。これから息の長い支援活動になると思います。一緒に働いて祈り続けて行きたいと思います。テレビや新聞や雑誌で被災者のニュースを知らせられます。「あの人は大丈夫かなあ？この人は大丈夫かなあ？」と、とても身近に感じられるようになりました。現場の痛みが少しですがわかるようになりました。試練の猛威の中で苦しみを受けた方々のために祈りたいと思います。そして出来ればまた行きたいと思います。「遠野は昔語り」の地です。少しでも痛みの「語り」が出来ればと思います。

最後に福岡連合からお風呂代の支援がありましたし、神奈川連合牧師会からの費用支援、教会よりの交通費支援がありましたことを心から感謝しています。どうも有難うございました。

追記：写真撮影には厳重な注意がありました。私たちの働きのみを掲載しました。ご了解下さい。